



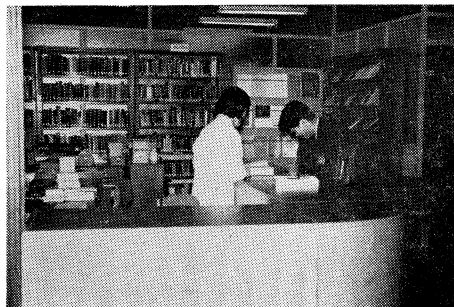
経済学部図書室

経済学部図書室は、大正8年の学部創立とともに設けられ、明後年をもって50年をむかえる。現在蔵書約25万冊、職員15名である。蔵書中にはA・スミスの〈諸国民の富〉、マルクスの〈資本論〉等の初版本をはじめ、貴重書多数を含む。また文庫としては、マイヤー文庫(15,000冊)、ビュッヒャー文庫(9,000冊)などがあるが、言論、出版の自由をテーマにして集められた上野文庫(11,000冊)はとくに著名である。

しかし、設立の古い図書室のいずれにもみられるように、ここにも難問は山積している。とくにぼう大な蔵書数に比して、それを収蔵する書庫が狭あいなため、止むなく6ヶ所に分散していることは、図書室運営上、さまざまな障害を生んでいる。いうまでもなく大学行政全体の中で、長期かつ総合的な図書館行政が確立されていなかったことの結果である。もちろん、ここ数年の間にも、書庫の増設、閲覧室の拡充整備などが行なわれてきたが、これらはいうまでもなく、一時的な応急処置にすぎず、根

本的な改善をせまられている。図書館施設の改善については、目下学部施設改善委員会で討議され、近く成案をみる予定である。こうした状況の中で、図書室としては、日常業務のより合理的な推進とともに、(1)上に述べた図書館施設の根本的な改善、(2)目下行なっているビュッヒャー文庫の整理に引続きマイヤー文庫等特殊集書群の整理、(3)書誌的文献類の整備(現在「参考図書目録」欧文編を編成中)の3点を当面の目標と考えている。

なお、経済学部には、図書室とは別に統計書や資料を収集・整備する調査資料室がおかれ、調査・参考活動をおこなっている。当資料室をはじめ、全国の有力な経済・経営学部の図書室、資料室で組織する経済学資料協議会の〈経済学文献季報〉は学術会議第3部の監修のもとに、最近号第43号まで続刊されている。



あとがき

巻頭の多くに外国の大学図書館はサービスがゆきとどいて使いやすいとあります。私達もそのような図書館に一日でも早くもっていきたいと思います。それには教官、学生、館員の協力が必要です。静脩を通じて図書館のあり方、将来を考える

ことができれば幸いです。

昨年7月まで図書館長として本学図書館の改善をはかられ、また「静脩」の生みの親である堀江先生には、御退官前の御多忙な折にもかかわらず、編集子の請いをいれて、巻頭言を御寄せ頂きました。厚く御礼申し上げます。